

（午前11時1分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番9、10番 平林君。

〔10番（平林崇行君）登壇〕

○10番（平林崇行君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行います。

今日、世の中は不景気だと嘆く声が数多く聞こえてきます。今までの方法ではやっていけないのは理解していても変えられない。また、時代の流れについていけないのが理解できていても何も変えられない人が仕事を失っているように思われます。そして、新しいことに挑戦する気持ちがない人が多く見受けられます。私は商売が好きです。何事でも長くやっていると自然に好きになるものですが、その中でも私は商売が好きです。一説によると、「商い」の語源は「秋、行う」だということです。昔、秋になると、収穫されたお米を中心に、各地の市で物々交換が行われていました。その「秋、行う」が転訛して「商う」になったと言われています。しかし、私の「商い」は飽きずに物事を行う「飽きない」のような気がします。好きだから飽きずにやる。飽きずにやっていたら、商売のコツも少しずつわかってきて自信もついてきます。あらゆる修行もそうですが、商売もきわめ尽くすということはありません。一段深いところに進んだと思っても、さらにその先が待ち構えています。そこまでたどり着いた喜びとささやかな自信とによって、改めて日々挑戦する気持ちがわいてきます。

そして、できるだけ大きな目標を持つよう

心がけています。大きな目標を持つと、「私はこれだけの仕事をする、ところで君はどうしてくれるのですか」とリーダーシップを持った仕事ができるようになり、小さな目標しか持たないと、「君がきちんとやってくれないからうまくいかないんだ」などという被害者意識が生まれてきてしまいます。今の社会、このような考え方をする人が数多く見受けられます。子どものころ、私たちは新しいものを発見したり、未経験のことに取り組んで日々冒険の連続でした。人間は冒険心を持ったときは生き生きとしています。ところが、社会に出るとミスの損害も大きくなるので、冒険を許容しなくなる傾向が出てまいります。だれもがミスを負いたくなくなるのです。これでは人に活気がなくなってしまい、他人からは相手にされなくなってしまいます。やはり自分の人生を他人に反映させてこそ生きがいを感じ取ることができるのです。

そこで私の今回の質問ですが、新しく設置した防災行政無線についてと、将来、橋本市が和歌山県北部のリーダーとしてどうあるべきかの2点についてを質問いたします。

1番目、防災行政無線のこれからの利用の方法について。①防災行政無線の建設も着々と進み、市内にも数多くが建てられ試験放送も始まりました。市民の皆さまの反響はいかがですか。②市民の皆さまから利用についていろいろな要求があると聞いていますが、どのようなことがありますか。また、要求についてどのようにこたえていきますか。

2番目、将来の合併について。橋本市は数年前の橋本市・伊都郡の合併で、旧橋本市・旧高野口町との新設合併を選択しました。しかし、合併問題は国・県の指導のもとに、こ

れからも橋本市・伊都郡の合併問題が近い将来浮上してくると私は考えます。先月に九度山町からの申し入れがあり、これからの対応が重要になってきます。和歌山県北東部に位置する橋本市・伊都郡を一つにまとめ共生するためにも、橋本市がリーダーシップを発揮して地域活性を行っていかねばならない使命があると私は考えています。近い将来浮上してくるであろう合併問題について、どのように取り組み、行政、教育、医療はどのように対応していくのか。

1 回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君）10番 平林君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）10番 平林議員の質問にお答えをいたします。

将来の合併問題についてのご質問でございます。現在の橋本市は、平成18年3月1日に旧橋本市と旧高野口町の合併により誕生し、地方分権の進展、少子高齢化による人口減少社会への対応、さらには厳しい財政状況の中で、行財政改革の推進により重点的・効率的な行政運営に取り組んでいるところでございます。特に合併後2年半を迎え、新市の一体性、公平性を確立するための新市まちづくりに向けたさまざまな行政課題が山積している状況であります。

このような状況下の中で、先月、九度山町から合併協議の申し入れがありました。今回の申し入れについては厳粛に受けとめ、今後議会をはじめ、多くの各界、各層の市民の皆さん方からご意見を伺いながら、その対応を慎重に検討していきたいと考えております。

現在の本市は、まず新市まちづくりに向けてさまざまな行政課題が山積している状況を克服すること、また行政基盤を強化すること

がまず必要であると考えます。国の示す道州制の方向に向け、今後、国、県の指導によりまして、近い将来、広域の市町村合併問題が浮揚してくるものと思われまます。そのときには行政、教育、医療をはじめ、さまざまな分野において、地方分権による市町村の役割の重要性、人口減少や高齢化などの社会構造の変化への対応、厳しさを増す財政状況などの課題を乗り越え、広域的、一体的なまちづくりを進め、行政サービスの質を今後維持できる効率的な財政運営を進めることの必要性に迫られると思っております。よって、将来、橋本・伊都は一つとした考え方の上で、橋本市が強いリーダーシップを発揮し、自主的な市町村合併を推進しなくてはならないと私は考えております。

あと、担当参与からまた説明をいたします。

○議長（中上良隆君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）それでは、続きまして、防災無線についてのご質問にお答えをさせていただきます。

橋本市防災行政無線は、平成19年度において設置工事が完了した55箇所の屋外拡声子局で、今年7月7日から試験放送を開始いたしております。また、試験放送開始に際し、「広報はしもと」7月号でも特集記事を掲載し、市民の皆さんに周知いたしました。放送開始から現在まで約2カ月が経過し、多数のご意見をいただきましたが、その多くは「女性のアナウンスの内容が不明瞭でわかりにくい」、「音声とチャイムやミュージックの音が小さく聞こえにくい」というご意見の一方、「放送がうるさい」とのご意見もいただいております。ただし、本年9月8日からは、今年度において設置工事が完了した25箇所の屋外拡声子局で、また9月22日からはさらに39箇所追加し、合計119箇所の子局で、より明確なアナ

ウンスの試験放送がほぼ可能となります。今後、音が聞こえるエリアも広がることで、現在放送の聞こえにくいエリアが解消されると考えております。また、正午と夕方のチャイムは、子どもの帰宅時刻の目安となり、自治会でも評判が良いとのご意見もいただき、市民の皆さまの関心の高さを感じております。

次に、防災行政無線の利用に関する市民のご意見としては、行政放送や地域コミュニティ放送に関する要望が多くあります。例えば、「地域での行事やイベント案内を放送してほしい」、「選挙時に投票を促す放送をすればどうか」などのご意見をいただいております。防災行政放送の内容につきましては、庁内運用検討委員会を開催し運用方針を決定した後、本格運用を開始する予定でありますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君、再質問ありますか。

10番、平林君。

○10番（平林崇行君）それでは、通告に従いまして、1番の防災無線の今後の利用方法についてですけれども、まず①の「防災無線の建設も着々と進み、市内に数多く建てられ、試験放送も始まりました。市民の皆さまの反響はいかがですか」ということでご説明いただいたんですけれども、確かに自治会のほうでは5時と12時ですか、子どもにも周知をできるということで、本当にそういう部分では好評やということなんですけれども、そういうことだけで防災無線ができたんじゃないと。防災行政無線ですからね。ですから、私は防災に関しては、あれはできたら使わんでいいような環境があればいいなと。できたら、まあ言うたら地震とか、今、ようゲリラ豪雨とか、ああいうものがないような、利用がないほうがいいとは思いますが、やはり万が一のために必要不可欠やと市長の判断で設置され

たものです。議会もそれに協力していくということなんですけれども、これはまた再度聞きますけど、確かに今、自治会の評判がいいということなんですけれども、じゃ、これに最終入札もしていくらかかったんですか、金額。かかったというより、かかるんですか。そして、できたら年間の維持管理費はどれぐらい見ているか教えていただけますか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）年度につきましては、19年度、20年の2カ年の債務負担行為で現在工事を進めておる最中でございます。

金額につきましては3億数千万円ということで契約させていただいております。それから、維持管理につきましては、今後、保守点検について、各市内に今現在で119箇所のアンテナ、スピーカーを立てておりますので、このメンテが定期的に必要になってまいります。これについては、まだ今後とりあえず1年間はさらでございまして、保守点検をするかしないかも含めまして今後検討させていただきたいと思っております。ただ、初年度は大丈夫だと思っておるんですが、今後2年3年経過しますと、やはり万が一の災害発生時に故障が発生しておって使えないという状況になりますと非常に大変なことになりますので、メンテはしていく必要があると考えておりますが、現在のところ金額についてはまだ把握といたしますか見積もりをとっておりませんので、ご理解賜りたいと思っております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）全然そういうことも考えてないと。では、この機械、電柱とかアンテナはほとんど問題ないと思っております、スピーカー系も。中の機器ですわね。これに対する経費と耐用年数、それを教えていただけますか、どれぐらいかかったのか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）すぐ調べましてご答弁させていただきたいと思います。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）金額については、今、他の議員からも通告外じゃないかというご指摘がありましたので、確かに私がこの金額を聞いたのは、市民の皆さんは反響の中で「高い金をかけてあれしたん違うん」、「どれぐらいお金かかってんねんやろ」、今、市民の皆さんは反響の一つの中にもあるんですよ。なぜ必要かという部分もあるんですよ。だから今、皆さん、道路、建物というのはものすごいシビアなんですよ。建てるのはいいんですよ、必要なものは。あとのいろんな費用対効果、どれぐらいかかってどうやろなど、本当に必要なものだろうかということは、これはものすごいシビアに考えてきているんですよ。だから私は今そういう数字を聞かせていただきましたけども、その辺がわかりましたら、後でも結構ですけども。教えていただけますか、参考に。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）大変失礼しました。先ほどのご質問にご答弁させていただきます。

まず、工事費でございますけれども、3億3,075万円ということで、平成19年度では1億3,990万円、平成20年度で1億9,085万円となっております。維持管理費用につきましては、年間約1,000万円から2,000万円は必要でないかというふうに推測しております。それから耐久年数でございますが、仕様ではポールで20年、子局のボックスなんですけど10年、それから操作卓で10年という仕様になってございます。よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）今、市民の皆さんがそういうこともある程度知らせていただきたいなというのはそこなんです。やはり市民の

声でもわからない部分があると。本当にそれだけのお金がかかって年間1,000万円から2,000万円、10年後には大きな改修が入ってくる、それだけのものを使うときに、私は少し反響を聞くのが遅いかなと思っています。もっと始まる前にいろんな人の反響を聞くべきかなと思っています。

その中で2番に移ります。「市民の皆さまから利用に対していろんな要求があると聞いていますが、どのようなものがありますか、また要求についてどのように答えていきますか」ということで、先ほど部長のほうから運用検討委員会を設けて、それで検討することなんですけども、この話はいつの話ですかね。もう予算が通って云々で2年前にはこの話が出ておったと思うんですよ。何でもそうですけど、皆さんもそうと違えますか。何か新しいものを購入するときに、ああ、人が買うたから、ええからうちも購入しようかって。お金持ちはいいですよ。先ほども橋本市長の中で、やっぱり厳しい財政上と皆さんに言いますわね。そんな中で新しいものを購入するというときは、それらの計画を立て、そしてどういうふうに利用するかというふうなものをすべて計画を立てた上で取り組んでいくべきじゃないですかね。私は、もうこんなはできとると思っていたんですよ。そして、いざ試験放送が始まれば、先ほど部長がおっしゃったチャイムのアナウンスの声は何やあれということで始まったんですけども、皆さんに周知徹底、じゃ、この機械をどういうふうに使っていただくのか、行政だけが防災のときだけに使うものなのか、防災行政無線というのであれば、行政のいろんなことに対して市民の皆さまに情報を流す、また先ほど言うたように市民の皆さまが情報を流していただきたいという場合にどういうふうな活用をするかという話し合いがあってもよかつ

たと思うんですけども、その辺の話し合いは何もなかったんですか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）確かに議員ご指摘のとおり、既に平成19年度から着工しておりますので、その時点からということで議員ご指摘のとおりかと思えます。地域の方々の話し合いということについてはいたしてはおりませんが、各区のほうへ設置しておりますので、各区長を通じまして地域地域の声をいただいておりますということでございます。そういうことで、議員ご指摘のとおり、早急に、もう遅れてはおるんですが、庁内内部的に検討委員会を立ち上げまして、どういった行政放送、どの部分まで流すのか流せないのか、そういったものを各部の所管の部長なりの意見を集約できる機会、組織を設けまして早急に検討させていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）検討していただけるということで、せつかくあるんですから、検討するって、いつまで検討するのかなど。流したらどうですか、いろんなケースケースを。だから、何でもそうですけど、物事をやってみていろんなものが反響が来るんですよ。そうでしょう。チャイムが鳴った、アナウンサーの声が悪い、流してから反響が来るんですよ。今できることをもっと活用したらどうですか。声というのは相手に届かそうと思ったら、やはり出さなあかんのですよ。この防災行政無線のほうで、いろんなメッセージ、地域のこと、いろんなことをどんどん流していても、私は別に皆さんが恐れているようなミスにはならないと思えますよ、先ほど言ったように。だめなものはだめとして、ああいうのは流さんほうがええで、いや、これはええで、そういうのをもっともっと1回の検討委

員会で受けるだけじゃなしに、ずっといろんな要望がこれから来ると思うんです。それを頭をやわらかくして、3億3,000万円、年間1,000万円から2,000万円、10年後には中の機器を変えなあかん、そういうふうな多額の経費のかかるものを、やっぱり市民の人が、あれはええよって、それぐらいのお金やったら、あれはみんなに意思疎通も図れる、いろんな情報も入ってくる、あれを聞いているだけでほっとする、また何かあったんかな、情報が入る、常にあれがただの12時、5時に流れるんじゃないしに、先ほど言うてましたわね、うるさいと言う人も。それはそうですよ、チャイムだけ鳴らされたらうるさいですよ。しかし、チャイムの後にいろんな情報とかそういうものが入れば、皆さん一生懸命聞くんですよ。だから、そういうことをもっと、即今言われているようなことをやるお気持ち、またいろんなことをまずやって評価をいただく、そしてその中から考えていくという姿勢はあるんですか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）当然機械の特性も勉強する必要もございませう。議員ご指摘のとおり総合的に検討させていただきたい。その前座といたしましては、先ほど女性の声が聞こえにくいという苦情もありましたので、今現在、市民安全課の職員が、細かな話でございませうけれども、まずこの間からは男性の声ということで課長がチャイムの前に放送しております。また女性職員もおりますので、どの職員の声が一番通じやすいかというようなことも含めまして、今、遅ればせながら取り組んでおります。

そういうことで、きのうからなんですけれども25箇所、そしてこの22日からは39箇所、市内ほぼ全域で始まりますので、そういう議員ご指摘の部分を検討させていただきたいと

思います。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）ぜひとも早急に、せっかく置いておいてもどんどんお金がかかるんですからね。私は市民の人に喜んでいただけるような、安心できるような、そのための防災無線になっていただきたいんで、そして、これは防災ということなんですけども、地区地区で使えるようにということなんですけども、じゃ、地区地区で使うためには、どういうふうにはこれは要望し、どういうふうな形で使えるのかなど。その地区というのはどういう形の地区なのか、少し詳しく説明願えますか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）この防災行政無線につきましては、議員ご存じのとおり双方向になっております。ですから、一斉放送は市のほうから本部を通じまして操作盤から一斉放送ができます。なおかつ各アンテナ、スピーカーが立っておる鉄柱からも直接本部のほうへも会話ができる、無線で送信ができると。なおかつ、例えばある地区地区に立っております、その1本2本を通じて地域地域での個別の放送も可能という、そういう仕組みになっておりまして、今後、各地域地域で区長方にその使い方も含めまして説明に入らせていただきたいというように考えております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）個別にということなんですけども、そのアンテナのところから個別にするのか、こっちのほうに来ていただいて、スイッチを押せば1番と20番が音が鳴る、あとは鳴らないとか、そういうふうなことも可能なのか、またそれで個別にするのであれば、マイクを持つにしても何にしても、どういうふうな形でやるのか、その辺のところをもう少し詳しく説明をお願いできますか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）いろいろと細かいお尋ねがあるわけですが、担当が申し上げておるように、できるだけ一斉にやっていく上で速やかに各関係区長に周知徹底をしたいと思うんですが、私からあえて申し上げたいのは、和歌山県でそういう一斉放送のない市町村は橋本市だけって私は言われまして、これは橋本市は遅れとるんやなということで、これは、おまはん、東の玄関口ってええ格好する場合がありますけども、笑われたんですよ。これで私は、高野山の山奥もかつらぎ町も九度山町も皆昔からついとるんですよ。ただ、デジタルという新しいのが、橋本市がこれは一番早いということなんですけど、拡声器やらはもう昔からついとると。私はそういうことで市長になったから、これはもう負けておられんわという気持ちを一つ打ち出したということで、特に東南海地震等の問題も含めて、災害、そして尋ね人の問題、これなんかも去年で2人橋本市で行方不明の方がおりました。これらも消防団や職員も大分出てくれました、暑いときに。これがあの放送があったら、もういっぺんにわかるんですよ。それが無いから、みんなのところへ尋ね回ってね。それで、この間からの500戸断水の問題で、茶色い水でご飯を炊いたというおしかりも私のところにもありました。これらも子局というのがあるんですよ、電柱の下に。それを区長がぱっと直ちに「区長です。班長、緊急事態が発生しました。班長、おる人はみんな寄ってください」と言ったら、いっぺんにさっと「10分以内に寄ってください」と言ったら10分以内に寄りますよ。そうしたら、その班が留守のところは、「コピーしたって、これを扉へつけてください」とね。そういう非常に大事なこと。

たくさん言いたいんですが、時間の関係でこの程度にしたいと思います。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）市長、ご答弁いただきました。当然それでしたら、なぜわざわざ運用検討委員会などというものをつくって、これから検討しますというようなことを今頃言うんですかと私は言いたいんですよ。予算ついた時点でそういうことはもう言うべきでしょうと。だから、そういうふうな対応と、そして、もう一つ私は、よそについてないからうちも欲しいというんじゃないしに、本当に必要性がある、こういう意味の中で、今、市長が言ったように、当然そういった水の事故とか尋ね人どうのこうのと活用しますよ。ですから、そういうことをもっと早くから市民の人に知らせていただいて、その利用の方法も開けたらマイクが出るって。それは雨が降るときでも使えるのかどうか私はわかりませんが、防水になっているのか。私らは多少はかじってますのでね、職業柄、いろんな分野でやっぱり心配するんですよ、利用について。ですから、その辺の答弁をいただいて、市民の皆さまに、木下市長が頑張っていて皆さまの安全と安心の一角としてこの防災無線をつけていただいたんで、こういうふうにご利用できますよ、こういうふうにご利用できますよということを私は報告したいので、今、質問させていただきました。市長の説明でほぼ納得しましたので、これから部長、要望ですけども、いろんな形で試験放送をして、本当に市民の人にとってよく聞こえる、よくわかる、そういうふうな部分を、100%のこういうふうな利用じゃないしに120%を考えるためには、いろんな経験じゃないけども、経過といろんなものをやっていったら私はええもんができると思いますので、これについては要望にして

おきますので。

それでは、続きまして第2の将来の合併問題につきまして。先ほど市長に答弁をいただきました。市長のほうもやはりこの合併問題については重要性を持ってこれからやってくるといって橋本・伊都との合併ということについては前向きな考えをお持ちやということで、私は感銘しております。私も合併あるべきやと思っております。そのためには、先ほど言ったように橋本市が強固なリーダーシップを持ってこの地域をまとめていく、その使命があると思っております。責任があると思っております。7万人を抱える橋本市が、この地域をよくする、橋本市がよくなるためには、かつらぎ町、九度山町、高野山、ここらが活性化していくということは非常に大事なポイントやと私は思っています。

そこで、先ほどの市長の答弁で、今、行財政改革に取り組んでいるということで、頑張るんやということで答弁をいただきました。そこで少し市長にお聞きしたいのは、今回の説明要旨で、約26億1,000万円の赤字を計上すれば早期健全化団体に、また約58億8,000万円の赤字を計上すれば財政再建団体となります、ちなみにということで打っております。この数字を今回説明要旨に入れられてきた意図、どういうつもりでこれは入ってきたのか、そしてまた何をこの数字は物語っているのか、その辺お気持ちがあれば、市長、答えていただきたいんですけど。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）市長にかわって私のほうからお答えさせていただきます。

この財政健全化判断比率といいますのが、全国全自治体におきまして、国の指導のもと、この9月議会に報告、公表するというようになっておりますので、国の方針に基づきまして今回提出させていただきました。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）国の言ったことだという事なんですけども、では、市長にご質問します。この数字を見て、橋本市はここ5年、10年、20年後にしっかりとしたまちになっていける、また行政改革を進めていっていける、またいっている数字かどうかというのを少しお聞きしたいんですけども。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）この合併等の問題でございますけれども、まず足元を固めて、高野口町・橋本市が合併したので、やはりそれをきちっと整えていくということが、経営の安定化ということで、これは非常に大事であると認識をしておるわけでございます。

私としては、将来、未来に向けてのこの考え方というのを市長に就任してから思っておるんですけども、まず第1に、企業誘致等でそうした土地利用を図って、そして今はそれが効果はなかなか出てきにくいですね、奨励措置がこうしておる以上は。しかし、10年後にはもとへ戻ってくるわけありますので、そういう職住近接のまちづくりの中で財源確保、そういうものをまず考えていかなければならないなということと、そして、やはり開発公社等の不良塩漬け土地が膨大にあるわけでございますので、これらを早期に企業誘致をそこへすることによって、非常に市も傷口ができてくるわけなんです、やむを得んと、金利をまずとめていこうと、大きな年間3,000万円以上の、今は若干金利は下がっておるものの、そういうものをできるだけ減らしていくべきだということで健全化を維持していく。将来には、本当に当時のそれぞれの職員なり議会の皆さんがやはり先見性があったと言われるようなしっかりとしたまちを長期的な

視点に立ってつくっていくのが先決ではないかなと。私は2年3年の目先のことはあまり申し上げたくないんです。しかし、ほっておくわけにいかんですね。公債費比率、財政健全化比率、いろいろの状態もクリアしながら堅実にやるのが確かに大事でありますけれども、そういう考え方を持っておるわけで、そうした中でやはり橋本市としてリーダーシップを発揮していくべきではないかなと。その時期は今としては私はまだ何も言えない時期であるということだけ承知しておいていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）着々といろいろのことに取り組んでいらっしゃるの私もわかりますけども、時期としてはわからないと。私は、木下市長がやっている企業誘致にしても、それは5年10年先の結果が出るという部分でのそういうふうなお答えは、木下市長がおっしゃることは間違いではないと思っております。しかし、今、何をこの改革でやらなあかんというのは行財政改革です。これはきょうからやらなあかんような取り組みなんですけども、市長も新市の市長になりまして、私は少し鈍ってきたのかなと。というのは、高野町の町長がこの間2選しました。彼が、僕はよく知っておりますので、いろいろ話をしたり、高野町のほうもよく行っていますので聞きます。彼は、今はもう合併はしなくていいと、やっていくめどがついたと。なぜめどがついたのかということは、二百二、三十人おった職員を150人に減らし、そして、いろんな予算もすべてゼロベースからの見直しやと。私がよく言うてる補助金なんて100%カットしたらええんやという、そういうふうな同じような発想で彼は進めていって、そして、必要などころには100あったものを120でも150でもぶち



込んでいく、要らないものにはゼロ、そういうふうな振り分けをして、かなり彼が就任したときは、一、二年は、私も行きましたけども、何や、あの町長はと、何を考えとるんやというむちゃくちゃな評価でしたけども、今回対抗馬もなし。やはり数字を出したということですね。数字はうそをつきませんからね。経営というものを考えるのであれば数字なんです。だから、私は数字というものにもっと、先ほど1回目で言いましたけども、大きな目標を持ってしっかりとリーダーシップを発揮していただけるんですよ。だから、この合併の問題、九度山町だけじゃなしに、私はこの様子をおつらぎ町も見ているような気がします。というのは、おつらぎ町がここ数年、合併からよくなったといううわさも何も聞いてきません。ということは、町民の皆さんから、いや、あんなことをやられて、もうわしらはがたがたや、どないなるんやろうというふうな改革ができてないんですよ。改革は不満が出てくるんですよ、必ず。しかし、それをやり遂げて結果が出ることによって、それが評価になってくるんですよ。だから、多分九度山町もおつらぎ町も、いろんな意味で橋本市の態度というのを私はこれから見てくると思います。そのときに本当に足元を固めるというのも大事ですけども、しっかりと早期に足元を固めて、橋本市がリーダーシップをとって、この地域を活性化していくんだという使命感です、先ほど言ったように。絶対この使命はあると私は思っています。その一番の使命が橋本市長である木下市長です。ですから、時期がいつわからないなどと言わないで、やっぱり日にちを切って私は行政改革、数字を上げて明確に取り組んでいただきたいと思います。

また後で、最後に市長、お話をいただきますので、ほかの質問をさせていただきますの

で、ちょっと待っててください。

ちなみに、今、行政のことだけでしたけど、私は通告の分に教育という部分が入っております。教育の部分はまだ何も明確なご答弁をいただいてないので、まず教育のほうはいかがお考えでしょうか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）教育行政というのは、教育基本法の趣旨にのっとりまして、教育の機会均等と教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図ると、そういうことを基本に施策を策定し実施しなければならないと、そういうふうに思っております。

平成18年の3月に旧高野口町と旧橋本市が合併の際にも、このことを基本に施策を策定しまして実施してきたところでございます。今後におきましても、合併があるなしにかかわらず、教育の機会均等と教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図ることは教育行政の責務であると考えております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）今、教育長のほうからご答弁いただきまして、基本法に基づいたらそうでしょうけども、橋本市にもやはり教育長がおっしゃって、橋本市独自の教育というのが僕はあってええと思うんです、特に歴史文化については。今、通り一辺倒の答えでしたけども、教育長として今もやっているとおっしゃいました。じゃ、ほんたら、この橋本市・伊都郡、歴史文化があって本当に大阪に近いベッドタウンであり農業もあり、いろんな環境も整った中で、どういうふうな教育で子どもを育てていきたいのか、そういうふうなお考えはあるでしょうか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）九度山町、高野町、

かつらぎ町がまず合併するせんにかかわらず、そういう地域の文化とか、あるいは地域の環境とかがいろいろ違うわけでございまして、そういう地域に根差した教育をしておるわけでございます。それは、子どもを中心に据えたというところでは各市町村共通しとると思います。地域に根差した、あったかいというんですか、地域の方々とともに橋本市らしい子どもというんですか、「知徳体」ということではなしに「徳体知」という人間を育てていきたいと、そういうふうに思っております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）そういうふうに育てていきたいと、まあ言うたら三人称的な官僚的な言葉を言っていたんですけども、私は、教育長も子どもさんを育てて、お孫さんもいらっしゃると思います。子どもができたときに、この子どもの5年10年、20歳になるまで、やはりこの子をどういう子に育てたいなという親心は出ると思うんですよ。私は、そういうふうな気持ちを持って、そして、私は橋本市の教育委員会に育てられて、橋本・伊都郡の地域の中で、やはりその地域を自慢していただける、誇りに思っていたいただけるような子どもをぜひともつくっていただきたいんですけども、そのような取り組み、これからおっしゃったように合併は当然いつあるかわかりません。合併ということを考えていく中で、合併ありき、合併なしという部分でも考えていっていただきたい。というのは、合併が現実になってきたから何かしようかとあたふたするようなことは私はしてほしくないんです。ですから、本当にこれから教育委員会の皆さんが集まって、先生も含めて、この地域の子どもたちをどうしたらええかということを考えていっていただきたい。というのは、私は寂しいのは、確かに教育についてそういうふうに教育長はおっしゃっていただき

ましたけども、現実には教師の多くの子どもさんは私学へ行つとるんですよ。これは何%か私はわかりませんが、かなり多くの方が行っています。それがいいとか悪いとか言ってるんじゃないんです。これが現状なんですよね。その現状を踏まえてこういう形がいいのか、いやいや、自分たちは頑張って、やはりこういう分野でも教育委員会は頑張って子どもを育てていくんやという部分の中の話があると思います。その辺のところをご答弁いただけますか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）橋本市の教育委員会は、特に学校教育だけでは人間教育はできませんので、生涯学習を通じた地域の皆さんの力をお借りして地域ぐるみの教育をしていきたいと、そういうことをずっと言っておるわけでございます。私ども教育委員会としましても、土曜日、日曜日とやっちょん踊りも踊ったわけでございますけれども、これは私たちは調子もんでやっちょん踊りをしとるわけではございません。私たち教育委員会としては、机上でやるやるだけはいかんと思いますので、やはり行動に移すということが一番大事やと、そういうことで、私どもは、きのうは大変しんどかったんですけど、2日間踊りましたので、そういうのは行動に移すことが大事ということで、その場でも地域の方々の協力を得まして、すばらしい橋本市、子どもをつくってほしいということを言わせていただいたんですけども、そういうすばらしい子どもをつくりたいという思いで出たわけでございます。それが一番やっちょんで踊った目的でございますので、そういうところは橋本市の教育委員会、これからも頑張っていきたいと、そのように思っております。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）一生懸命踊っている姿、

私はきのう拝見させていただきました、教育長がやっちゃんを。私は心地よい疲れと汗やと思います。そういうものをこれからもっともっと多く、そして今、教育長がおっしゃったように、地域の人たちがという部分で、必ず地域の人がそういういろんな考え、いろんなことを言うてきたときには耳を傾け、それを実行していただく気持ちを持ってくださるということで、私はすごく今、ああ、いいことを言うてくれるなど。ですから、その言葉を裏切らないように、必ず地域の皆さんの声には傾けてください。どうぞよろしくお願ひします。

続きまして医療。医療の分野に関しましては、今、橋本市民病院がありますよね。それを中心にこれからこの地域も医療的には進めていっていただきたいんですけども、連携、いろんなところと今度は橋本市だけじゃなしに、病院も合併が進んできたら医療もそういう部分ではいろんなバランスがあると思うんですよ。そしてまた今回、紀北分院ですか、また新たに新設するということなんですけども、その辺のところとの連携、この医師、看護師不足の中で、経営、運営ということも非常に大事です。その辺の中のいろんな地域との連携をこれからいかに図っていくのか、また、どういうふうに話し合いをして安心な医療圏を確保できるかということ、その辺を少しご説明願えますか。

○議長（中上良隆君）病院事務局長。

○病院事務局長（尾崎慶和君）橋本医療圏につきましては、橋本市を中心として、かつらぎ町、九度山町、高野町も入っております。そういう中で、平成19年3月時点の医療機関の数でございますけれども、病院で7病院、それから一般診療所が93となっております。今、議員ご指摘のとおり、今後、合併にかかわらず新築される紀北分院との病病連携が非

常に重要になってくると考えております。また、地域の医療機関との病病・病診連携も現在以上に強化を図りながら、現在の医療圏内で補完できる、今現在6割程度補完できております。ですけれども、県外に出られておられる患者さん、それが24.4%ございまして、多分大阪のほうへ出られていると。それが近畿大学並びに南大阪医療センターのほうへ受診されているのではなかろうかと予想しております。そういうところを6割から7割程度に上げていきたいと思っております。そのためにも、病病・病診連携も欠かせないと思っております。

そういう中で、本院の財政状況が好転し、しっかりした体制になった折には、本院で唯一欠けておりますICUを将来的には設置して、東の医療全般をきちっと補えるような体制に持っていききたいということでは院内協議を進めておるところでございます。ですけれども、財政再建が唯一でございますので、22年までしっかり財政を健全化しながら、それ以降に具体的な形に入ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）ここでもやはり病院も財政という形で大きくのしかかってきております。大変だと思いますけれども、ぜひとも地域の医療の安全安心確保という中でも非常に大きなポイントを占めておりますので、よう連携を図って行って、合併がいつ起こっても、あした合併するよと言っても大丈夫と言えるような準備だけはしていただきたいと。お金も部分もありますけれども、そういう準備はぜひともよろしくお願ひします。

消防長、消防のほうなんですけども、消火はいいんですけども、今、医療の部分、救急の部分のことなんですけども、大きくまたが

ってきた場合には、そういうふうな大きな消防の改革というのはあるんでしょうかね。救急車にしても何にしてもそうですけども。その辺のところは、この合併問題についてはどうでしょう。

○議長（中上良隆君）消防長。

○消防長（大西洋二君）将来的な話になろうかと思えますけども、九度山町云々の件につきましては、我々といたしましても、この18年の3月の高野口町・旧橋本市の合併に伴いまして、高野口町部分につきましては伊都消防にお任せするという事の中で、それも前回の議会で市長からの答弁もあったように、5年の覚書をしてございます。5年までに何らかの対応をするということでお返事させていただいたような形です。ただ、九度山町につきましても同じような対応でいくのか、それとも橋本消防を単独で見ると、その点につきましては、今後、検討中ということよりもまだ話も進めておりません。結論が出ればそれなりに前を向いて対応をしていきたいと、かように思っております。

以上です。

○議長（中上良隆君）10番、平林君。

○10番（平林崇行君）まだいまだに対応ができていないということで、当然だとは若干思うんですけども、今現在、現状は九度山町から合併をしてくださいという話も来ていますよね。ですから、ここを期に、そういうことも踏まえて、医療もしかり、消防のほうも119番という医療関係も持っていますので、その辺も含めてそういうテーブルをつくっていただいて、先ほど言ったように、いつ合併があってもよし、合併なかったら当然よしという形の中での、私は二者択一じゃないですけども、どっちが来ても大丈夫というような取り組みを、別にこれは予算は要らんとしますよ、考えですからね。要らんとします

ので、ぜひとも密にやっていただきたいと思えます。

さて、市長、時間もまだ十分あります。言うたように、病院もいろんな改革をし、医療、教育もやっていく中で、財政、お金というのが非常に大事になってきておる。これはもう皆さんわかっておるとおりですけども、その中で私は行政改革というのは本当に急務であると思っております。何年か先にしようなんて言うてたら、このまちは私は本当に60億円のお金なんてあつと言う間に使い切ってしまうのかなと思ったりしますので、市長、最後に、まだ5分以上ありますので、じっくりと市長のこれからの橋本市構想、リーダーシップ橋本市構想と合併につきましてお話しただけですか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）平林議員の再質問にお答えをしたいと思います。

非常に行財政改革ということ、これは真っただ中でございます。昨年から進めております。やはり基本は、これはもう行政改革大綱、そしてまた116項目にわたる集中改革プラン、これにのっとり、やはりそれが軸で今日進めておるわけでございます。

私は、住んでよかった、住みたくなるまちということをいつも多くの会議のときには申し上げておるわけでございますが、ただ、あまり皆さん方に財政のことを徹底して言いますと、もう萎縮してしまって、区長方も、「あれも言いたい、これも道も直してほしいけども、市長があんなことばかり言うさかい、もう」というようなこと。これは大事ですよ。これは、私は基本は緩めるわけにはいきませんが、伊都の高野町あたりの、先ほど話が出ていますけども、それは理想的、いいところはいいですよ。しかし、非常に衰微

されて人口が加速的に減ってしまうおそれがあるということが、魅力のないまちづくりということですよ、裏を返すと。これが難しいんでね。平林議員、橋本市は1年間に何人減っておるかわかりますか。もう7万人弱と言うてましたですね、高野口町、橋本市。もう今は胸を張って7万人と言えないんですよ。もう8,000を割っとるん違いますか。市報の最後のところに数字が出てますから見といておくれ。これは、もちろん高野町やほかの九度山町も加速的に減っとるんですね。ほんで、私は今、合併当時のときの記憶があるのには、10万人弱ということ、皆さん、記憶がありますね。そうなっとるやつが、もう今は9万人ちょっとですよ。これが昭和30年の昭和の合併をしてから、今、五十幾年たちましたか。五十幾年たっとるんですね。これから五十幾年たつたとしますと、恐らく私は、これは努力次第によりますけども、5万人台。6万人はなかなか届かんなど、私の係数ではコンピュータに入れてますけども、今の状態からしますとそのくらい。ほんで、うちは7万人ということですから、いかにして7万人を維持していくかということ。これは笑い事やないですよ。皆さん、1回きょうは帰ってゆっくり冷静に判断してほしいと思うんですが、非常に減り方が、これはなぜかという、この社会の増減がきついです。市長さんよ、私たちはここへおつてもコミュニティバスも城山台に入ってくれへんので、わしらはもう大阪へ行きますんや。傘の要らないところへ行くと言われますんよ、傘の要らないところへ。ほんで、私はぴんと来なかったんですね。そしたら、橋本市も全部アーケードをして傘を持たないようにせないかんのかいなということもあつたんですが、マンション50階建ての47階へ入るんですよ。1階から5階までは福祉、医療、保健、全部そろっとるんですよ

と。そういうのが広がってきまして、ほんで私もこれはコミュニティバスも非常に責任を感じておるので、それに対抗するというと並大抵やないわけですが、本当にこの厳しい難しい時代に入っておるということですので、これは議会の皆さんにもご理解もいただきながら、何とか橋本市は7万人近い人口、まちづくりをしっかりと携えていかなければいけない、そう思っておるところでございます。

申し上げたように、ある程度魅力のあるまちづくりを、費用対効果ももちろんございます。今後、慎重にひとつご意見を受けまして、そして皆さんに喜んでいただけるようなまちづくり。お金を使わずに喜んでいただくというのがなかなか難しくてね。これをうまく市民協働ということで、私も大分、市、職員も奉仕もするけど皆さんもしてよということは今真ただ中でいろいろと取り組んでおるわけでございますので、どうぞ橋本市が光るようにお見守りをいただきますようお願い申し上げます。答弁とさせていただきます。

○議長(中上良隆君) これをもって、10番 平林君の一般質問は終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

(午後0時1分 休憩)